



美しきウィーン。三大オーケストラの一角！

話題のピアニスト＆首席指揮者オルソップと共に8年ぶりに来日。

バーンスタイン、ペンデレツキ、ルトスワフスキなどの現代曲を作曲者本人が初演し、彼らに愛されてきたウィーン放送交響楽団。

クラシックからコンテンポラリーまで、オーストリアの楽団で最も多彩なレパートリーを誇り、

世界一耳の肥えたウィーンの聴衆を前に楽友協会やコンツェルトハウスの定期演奏会で名演を繰り広げてきました。

2019年からは現代最高の女性指揮者と名高いマリン・オルソップが首席指揮者に就任。

その彼女が熱望したのは話題のピアニスト角野隼斗。

22年9月ポーランド国立放送響日本ツアーでの共演に続き、待望のカップリングが早くも実現！



ウィーン放送交響楽団 *ORF Vienna Radio Symphony Orchestra*

オーストリア・ウィーンを本拠とするオーストリア放送協会(ORF)所属の放送オーケストラ。1969年に設立され、96年まではオーストリア放送交響楽団の名称で活動を行った。ウィーン・フィル、ウィーン交響楽団と並ぶ名門オーケストラとして広くヨーロッパで目覚ましい活躍を繰り広げている。ミラン・ホルヴァートやローター・ツアグロセク、デニス・ラッセル・ディヴィス、ベルトラン・ド・ビリー、コルネリウス・マイスターなどの名指揮者が首席指揮者を歴任し、2019年からはマリン・オルソップが首席指揮者に就任。

古典派から現代音楽までレパートリーは幅広く、特に現代音楽に強みを持ち、バーンスタイン、ペンデレツキ、ルトスワフスキなど作曲者本人と初演を手掛けた。各地の国際音楽祭に招かれ、欧米、アジアなどツアーモデル。歌劇場オーケストラ、映画音楽でも存在感を發揮している。

2022年には政府のオーストリア放送への予算大幅削減により存続問題が報道されたが、音楽を愛するウィーン市民をはじめ世界中から支援がなされて撤回、古き良きウィーンの伝統を残す貴重な存在として活動を続けている。

マリン・オルソップ(指揮) *Marin Alsop, Conductor*

ニューヨーク生まれ。イエール大学と茱莉アード音楽院を卒業後、バーンスタイン、小澤征爾に学ぶ。1989年、タングルウッド・ミュージック・センターでクーセヴィツキー賞を受賞し、翌年にはバーンスタインの招待でPMF音楽祭に参加した。米国メジャーオーケストラの音楽監督など多くの要職を務め、女性指揮者の躍進を牽引している。コロラド交響楽団の音楽監督、ボーンマス交響楽団、サンパウロ交響楽団の首席指揮者などを歴任。2007年から14年にわたってボルティモア交響楽団を音楽監督として率い、現在は名誉指揮者を務めている。2019年にはウィーン放送交響楽団の首席指揮者に就任。また、ポーランド国立放送響の芸術監督兼首席指揮者(2023～)、フィルハーモニア管(2023～)、フィラデルフィア管(2024～)の首席客演指揮者に就任するなどその活躍はとどまるところを知らない。近年は、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、パリ管、ロンドン・フィル、シカゴ管などに定期的に客演。ディスコグラフィも多岐にわたり、グラミー賞にも多数ノミネートされている。

角野隼斗(ピアノ) *Hayato Sumino, Piano*

2018年、東京大学大学院在学中にピティナピアノコンペティション特級グランプリ受賞。2021年、ショパン国際ピアノコンクールセミファイナリスト。これまでにポーランド国立放送響、ボストン・ポップス、ハンブルク響、N響、読響など、国内外のオーケストラと多数共演。CASIO電子楽器アンバサダー、スタインウェイアーティスト。クラシック音楽に特化した新アプリ、Apple Music Classicalのアンバサダーを務める。

“Cateen(かていん)”名義で活動するYouTubeチャンネルは登録者数が130万人超、総再生回数は1億回を突破。海外での活動も増え、ブルガリア、ブダペスト、パリ、ウィーン、ポーランド、シンガポール、台湾、韓国などにて公演を開催し、現地の観客から称賛を得ている。現在は、拠点をニューヨークに移すなど、世界各地で活動を行っている。2024年、ベルリンに本拠を置くSony Classicalと専属レコーディングのワールドワイド契約を締結。クラシックのピアニストとして確固たる位置を築く一方、ジャンルの垣根を越えた音楽の探究心で知られる、唯一無二のピアニストとして注目を集めている。

<https://hayatosum.com>



T O U R S c h e d u l e

9/7 国神奈川県民ホール | 9/8 国サントリーホール | 9/10 国愛知県芸術劇場 | 9/11 国アクロス福岡 | 9/13 金新潟県民会館
9/15 国ザ・シンフォニーホール(大阪) | 9/16 国所沢市民文化センター・ミューズ | 9/19 国広島文化学園HBGホール ほか